

# 一人ひとりの自立を目指した学級作り

## ～グループワークトレーニングを通じて～

加納岩小学校 雨宮 正倫

- 1 題材 グループワーク・トレーニング 「人間コピー」  
(グループの課題達成に向けて、一人ひとりどう行動したらいいか考える活動)  
日常生活や学習への適応及び健康や安全に関すること (2)  
望ましい人間関係の形成 (ウ)

### 2 題材について

#### (1) 児童の実態

児童は、これまで、6年生としての様々な行事と通じて、個人としても集団としても様々な成長が見られた。特に、音楽集会では、学年発表を行い、発表をすることができた。しかし、子ども達だけの運営や自治にはまだまだ課題は多い。話し合いの場面では、自分の考えを伝えられない児童がいたり、考えを伝えても、伝えっぱなしで、折り合いをつけたりできないことがあった。また、一部で作業を進めてしまい、役割分担をして進めることができないこともあった。さらに、特にコミュニケーションを取らず、個人での活動を好む児童も見受けられる。

児童はこれまでに、日常的な指導のなかで、「協力することが大切である」ことは言葉として学んできている。これまでの集団生活の中で何となくそれぞれには「協力」というイメージをそれぞれがもっている。しかし、子どもたちに、協力してと言ったところで、子どもはどのように協力したらよいか、わからない場合が少なくない。それは、協力して仕事を終えるためには、どういうことが必要なのか知らない、あるいは協力のイメージが異なるからだと考える。

#### (2) 題材設定の理由

児童は、「離れたところにある絵を見てきて、そのとおりに絵を写す。」ことを体験する。協力とはどんなことをしていくことか児童が、一つのモデルをもつことによって、日常の学校生活においても、よりよく協力をしていく力が培われていき、2学期の運動会へのリーダーシップなど、集団生活の中でのさらなる成長につながっていくと考え、本題材を設定した。

協力の中で、どういうことが必要なのか以下に分類する。

- ①リーダーがいること グループの組織化
- ②目標が全員にわかっていること 目標の明確化
- ③グループの全員で目標達成の方法・手順の決定すること
- ④役割を分担すること 仕事の分業化
- ⑤だれが何をしているかなどを全員がよく知っていること 情報の共有化
- ⑥お互いにサポートし合うこと 相互依存

こうした内容を、活動の中で子ども達が意識し、身につけさせていきたい。

また、最後に活動を振り返る中で、「課題解決に役立つ行動」「賛成した・励ましたなど関係性が進む行動」「雰囲気をよくする行動」など友達のよさにも、気づき、普段の生活へと一般化させようとする態度を身につけさせたい。そのためには、結果よりもプロセスに目を向けさせ、振り返りを行わせる。

### 3 題材の評価規準

関心・意欲・態度	思考・判断	表現・技術	知識・理解
課題をすることで、人とかかわる楽しさや協力することの喜びを感じさせる。	自分で見通しを持って考え、自分で判断することができる。	班の中で、自分の考えをしっかりと伝えることができる。	グループワーク・トレーニングのねらいや進め方を理解する。

### 4 題材のねらい

- 課題をすることで、人とかかわる楽しさや協力することの喜びを感じさせる。
- 班の中で、自分の考えをしっかりと伝えることができる。
- 自分で見通しを持って考え、自分で判断することができる。
- 話し合いのルールを学ぶ。(班員の考えに耳を傾け、意欲的に話を聴くことができる。)
- お互いの意見の違いを受け入れ、多数決でなく班の意見をまとめる態度を育てる。
- グループワーク・トレーニングのねらいや進め方を理解する。

### 5 本時の学習

#### (1) 本時の題材

『人間コピー』 ―グループにおける自分の役割を意識する―

#### (2) 本時のねらい

「人間コピー」の活動を通して、グループにおける自分の役割を意識し、自分や周りの人のよさに気づくことができる。

#### (3) 準備物 ルール説明用模造紙、元の絵、画用紙、振り返りシート

(4) 展 開

場面	学習活動	指導上の留意点	評価方法等
導入	<p>1 説明</p> <p>(1) 席の移動</p> <p>(2) グループ・ワークトレーニングについて説明を聞く。</p> <p>(3) 本時のねらいの確認</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>自分の役割を意識し、自分や周りの人のよさに気づこう。</p> </div>	<p>初めに班隊形にし、グループで取り組む雰囲気をつくる。</p> <p>課題がゲームに終わらないよう、何のために行うのか、ねらいをしっかりと理解させる。</p>	行動観察

展開	<p>2 実施</p> <p>(1) 課題の説明を聞く。</p> <p>○廊下に一枚の絵がある。それを班の一人一人が見に行き、1枚の紙に、そっくり同じように描く。</p> <p>①何度見に行ってもよい。</p> <p>②1回で見に行ける人は班で1人。</p> <p>③見に行くときは、何も持って行かない。</p> <p>(2) 活動</p> <p>○時間 12分</p> <p>(3) 班の成果の確認</p> <p>絵を見せ合い発表する。</p>	<p>ルールを掲示し、理解させる。</p> <p>活動の中で、その場で起きてきていること、その場で感じとっている感情を見つめさせる。</p> <p>各グループの状況を見ながら支援する。</p> <p>班の協力度をアップのため、作戦会議を行うよう助言する。</p> <p>班員が傷つく場面では、介入する。</p> <p>活動がうまくいくポイントとして、役割分担があることに気付かせる。</p> <p>(見に行く順、主に描く人、全体を見る人、部分的に見る人など)</p>	<p>行動観察</p> <p>行動観察</p> <p>班内で起こっているプロセスを注意深く観察する。</p>
----	---	---	--

終結	3 振り返り ○活動のふり返り（5分） ○各班で、意見をまとめた人、いい考えを出した人、絵を主に描いた人など出合う。	ふり返りでは、グループの状況（活発、ひとつになっっている、分かれているなど）などのプロセスに注目させ、自ら気付かせる。	振り返りシー
	4 一般化 ○活動中のグループの一員として、役割を果たす、協力的な行動を取り上げて、	ふり返りによる気づきを、日頃の生活で生か	行動観察 活動中に観察

(5) 評価

- ・自分の役目を意識し、グループの活動にかかわるわることができたか。
- ・自分や周りの人の言動のよさに気づくことができたか

6 使用する教材・資料・参考文献

「人間コピー」

板野公信 監修（日本学校グループワーク・トレーニング研究会著）

『学校グループワーク・トレーニング』 p. 60

[http://www.nahaken-okn.ed.jp/nahac/ken\\_pdf/89/682/sidouannmujinntou.pdf#search=%E3%82%B0%E3%83%AB%E3%83%BC%E3%83%97%E3%83%AF%E3%83%BC%E3%82%AF%E3%83%88%E3%83%AC%E3%83%BC%E3%83%8B%E3%83%B3%E3%82%B0+%E6%8C%87%E5%B0%8E%E6%A1%88](http://www.nahaken-okn.ed.jp/nahac/ken_pdf/89/682/sidouannmujinntou.pdf#search=%E3%82%B0%E3%83%AB%E3%83%BC%E3%83%97%E3%83%AF%E3%83%BC%E3%82%AF%E3%83%88%E3%83%AC%E3%83%BC%E3%83%8B%E3%83%B3%E3%82%B0+%E6%8C%87%E5%B0%8E%E6%A1%88)

<http://www.hiroshima-c.ed.jp/web/an/j/tok/tok-j-2002.pdf#search=%E3%82%B0%E3%83%AB%E3%83%BC%E3%83%97%E3%83%AF%E3%83%BC%E3%82%AF%E3%83%88%E3%83%AC%E3%83%BC%E3%83%8B%E3%83%B3%E3%82%B0+%E6%8C%87%E5%B0%8E%E6%A1%88>

# グループワーク・トレーニング「人間コピー」

## ふり返しシート

6年 組 番・名前

---

めあて

--

今のグループでの活動を思い出してみましよう。

1、グループの友達は、「人間コピー」を完成させるために、いろいろな行動がありました。

友達がしてくれたことや、うれしかったことを、書きましょう。

--

さんへ

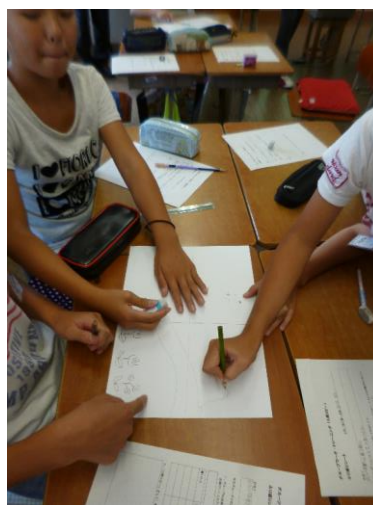
書いた人	してくれたこと、うれしかったこと

2、「人間コピー」をして、気がついたことや、思ったことを書きましょう。

--

## 7 研究会から

- ・前回の検討会での反省がよく生かされていた。
  - ・ワークシートに活動後、全員のよいところを書ける仕組みになっていたのがよかった。
  - ・指示が細かく歯切れ良く、子どもの活動を保障するものであった。
  - ・始めに、練習の時間があったことで、ルールを完全に理解していなかった1つのグループが理解できて本番に入ることができた。
  - ・作戦を手立てるという活動があったのは、子どもの意欲を高める言語活動になっていた。
  - ・活動ありきにならないように、めあてを振り返り確認する時間を取っていたのが良かった。
- 
- ・一般化で運動会や卒業式にもつなげられる内容であった。
  - ・学力向上と学級活動の関係性が注目されている。続けていくことが大切と感じた。
  - ・普段の学校生活の中での困り感を出させてから、めあてを提示すれば、めあての必然性が出てくるのではないか。
  - ・一般化の場面で運動会の写真を提示したことは良かった。最後の全員が活動する場面で吹き出しをつけ、この考えをたくさん出させれば次への活動の意欲につながったのではないか。
  - ・役割分担を意識する際、活動子行う人数がポイントになる。今回は4人組で行った。活動量に対して、グループの人数のバランスを考え、役割分担が適当になるようにする必要がある。



子どもの感想（ワークシートの記述から）

- 人間コピーは、一見簡単に見えたけど、実際やってみたらとても難しくておどろいた。この人間コピーをずっとしていれば、みんなのきずなも深まるのではないかなと思った。
- 人間コピーをして、1人でやること以外、全部2人～9人ぐらいでも協力するんだということに気づいた。ローテーションという言葉初めて知った。必ず1人しっかり役割分担の仕事くれた。りかさんや、ゆうくんが1度見た絵をはっきり書いてすごい。
- 人間コピーをして思ったことは、協力をすればするほど相手のよい事がよりわかってきた。また、相手の良いところを自分がまねしなきゃいけないとも思った。これからも友達のよいところは積極的にまねていきたい。
- みんな役に立っているなと思った。細かいところはきょうな人にやってもらったりした。また、こういうことがあったら今日やった案をいかしていきたいと思った。いいところをみつけてよかった。
- 絶対1人じゃあんなに上手に書けないけど、グループでやるとお手本みたいに上手に書いて「やっぱりグループは大切だな。」と感じた。友達（班）の人がとても細かいところまで見てくれたり、アドバイスをくれたおかげで作業がスムーズに進んだ。
- 班のみんなの協力性が上がったと思う。自分の役割をちゃんと理解して、大事な所と細かいところの役割をわけたりできてとてもよかった。班1人ひとりがちゃんとこうけんしていてとてもよかったと思う。役割を決めるだけで、正確になったし、いい絵になったと思う。
- 自分だけだとたくさん時間が必要だけど、みんなでやると1人のときより早く終われてよかったし、みんな協力できたからよかったと思った。
- 1人だと10分以上の時間がかかってできることを、グループでやったら1人よりもっと早くできる。だれが何の役割をするかを決めたら、もっと早くできる。
- 1つのことをやる時、役割を決めたら短い時間でできることがわかった。だから、給食準備は、あらかじめ役割を決めているからスムーズに進むことに気づいた。

①まず、子どもの感想から成果をまとめる。

- ・ローテーションして絵を描くという意見を取り入れて行ったグループの児童は、その方法をはじめて知ったようで、協力する方法を自然と学んでいた。
- ・「協力をすればするほど相手のよい事がよりわかってきた。」という感想もあり、それを交流し合ったので、お互いの自尊感情も高めることができたのではないかと感じた。
- ・「グループでやるとお手本みたいに上手に書けた。」「役割を決めるだけで、正確になったし、いい絵になったと思う。」など、役割分担のよさに気づくことができた児童が複数いた。
- ・「給食準備は、あらかじめ役割を決めているからスムーズに進むことに気づいた。」と、普段の生活に一般化して考えた児童もいた。
- ・「人間コピーをずっとしていれば、みんなとのきずなも深まるのではないかなと思った。」とあり、これからの活動の意欲につながる意見があった。

②次に課題についてまとめる。

- ・グループワークトレーニングを行った後に、劇的に子ども達の活動に変化が見られたわけではない。やはり継続性と事後の指導がかかせない。
- ・グループワークトレーニングを行う際、最も重要なのは一般化であると考えられる。いかに普段の生活につながり合わせ、考えさせることができるかである。また、授業後の指導も必要である。教師が望ましい行動の範を見せ、やらせて、ほめることなども、授業後に大事になることである。
- ・グループワークトレーニングでは、活動の楽しさが、子どもの意欲となり、役割分担などを行うことが自然発生してくる。しかし、実際の中では、楽しい活動ではない部分での役割分担や、リーダーシップ・フォロアーシップ・目的の共通理解が必要である。今回の授業後であれば、普段の給食準備や掃除、運動会の係活動や縦割り範の活動である。協力するとは、何をする事なのか、子どもが共通のイメージを持って活動ができるよう、指導を続ける必要がある。そのために、授業での別のグループワークトレーニングを行ったり、普段の生活で望ましい行動をほめたりする中で、協力することの技能やよさを波及していくようにしていきたい。
- ・また、マズローの5段階にあるように、承認の欲求が満たされた上で、自己実現の欲求が現れる。目的を持って自分たちで成長していこうとする学級作りを進める上でも、お互いが認め合える活動、良いところを見つけ合える活動は、必須であると感じた。